

がん患者のための地域開放型医療相談システムの構築： 青森県におけるがん患者サポートグループ運営のため「ファシリテータ」育成と サポートグループ運営プログラムの構築

織井優貴子¹⁾、佐藤仁美¹⁾、吉田茂昭²⁾、一戸真紀³⁾

1) 青森県立保健大学、2) 青森県立中央病院、3) 青森市民病院

Key Words ①がん患者サポートグループ ②地域開放型医療相談システム
③がん看護認定看護師 ④ファシリテータ育成

I. はじめに

平成 18 年に施行された「がん対策基本法」に基づき、平成 19 年 6 月に「がん対策推進基本計画」が示され、国・地方公共団体および関係者等が、がん対策を総合的かつ計画的に推進していく必要性が示されている。青森県は、がん死亡者数が全国第 1 位であるにも関わらず、がん患者のサポートグループに対する行政の取り組みはなされておらず、平成 22 年 1 月に行われた「がん対策に関するタウンミーティング」では、がん患者から心理的サポートの必要性について切望されている。

2005 年、織井らは、本邦のがん診療連携拠点病院約 160 施設にがん患者のサポートシステムについて質問紙調査を行った。その結果、いわゆる「相談室」はほぼ確保されている事がわかったが、その運営や主たる専門職をどのように配置しているかについては試行錯誤の段階であることがあきらかになった。本邦でも様々なサポートグループが存在するが、院内設置型医療相談システムは、患者—医療者関係が作用し、本音を語れないなどの課題は多く、確固とした教育研修プログラムは未開発であり、かつそれに従事するスタッフの育成や運営は多くの研究者の課題とするところである。

II. 目的

本研究の目的は、がん対策推進基本計画である『がん医療に関する相談支援および情報提供』に基づいて、青森県における医療相談システムとして、地域開放型のがん患者へのサポートグループ運営関わるファシリテータの育成とのサポートグループ運営プログラムの構築を目的とする。

III. 研究経過

1. 全国のがん診療連携拠点病院における医療相談室の実態調査
 - 1) 対象：全国がん診療連携拠点病院（約 350 施設）
 - 2) 方法：「がん患者のための地域開放型医療相談システムの構築」—地域がん診療連携拠点病院『医療相談室』に関する調査—として作成した質問紙調査を実施した。
2. がん患者サポートグループを実際に運営している施設への聞き取り調査
 - 1) 行政と協働でがん患者の情報収集および相談を実施している団体を調査した。
 - 2) 運営主体、運営方法（活動資金等も含む）、ファシリテータの育成とその方法について聞き取り調査を実施した。

IV. 成果及び考察

1. 全国がん診療連携拠点病院における医療相談室の実態調査

本学の研究倫理委員会審査を受けたのち、平成 23 年 2 月～3 月上旬に調査を実施し、351 施設に協力を求め、130 施設より回答を得た。

2. がん患者サポートグループを実際に運営している施設への聞き取り調査

がん情報サポートセンターにその情報が公開され、がんに関連した学会でその活動を積極的にPRしている NPO 法人 M に決定し、平成 23 年 2 月に調査を実施した。1) 相談情報サロンの概要、2) ファシリテータの育成方法について情報を得た。

以下の点が次年度の課題となった。

1) 行政・医療機関との連携の可能性

「青森県がん診療連携協議会」に対し、協力を求めるための基礎的データをまとめる必要がある。

2) ファシリテータの育成について

がん看護に関連した認定看護師のキャリアアップとして、ファシリテータを養成したいと考える。

医学的な知識よりもむしろファシリテータの仕方に重点を置き、昨年度実施した「ファシリテータ養成研修」のアドバストコースとして、内容を検討し、プログラムとして位置づけたい。

3) 運営資金・人材の確保について

青森県がん診療連携協議会の事業の一つとして、位置づけられるように提言していく。

VI. 文献

- 1) Spiegel D, Bloom JR, Kraemer HC, Gottheil E: Effect of psychosocial treatment on survival of patients with metastatic breast cancer. *Lancet*. 2(8668):888-91, 1989
- 2) Fawzy FL, Fawzy NW: Group therapy in the cancer setting. *J Psychosom Research* 45: 191-200, 1998
- 3) Bos-Branolte G, Zielstra EM, Rijshouwer YM, et al: Psychotherapy in patients cured of gynecological cancers. *Recent Results Cancer Res* 108:277-288, 1988
- 4) Baider L. Peretz T, Kaplan De-Nour A: The effect of behavioral intervention on the psychological distress of Holocaust survivors with cancer. *Psychother Psychosom* 66 (1): 44-9, 1997
- 5) 福井小紀子：がん患者のためのサポートグループ-理論的背景と実践効果-. *がん看護* 7 (6) : 488-493, 2002
- 6) Eysenck HJ : Cancer, personality and stress: Prediction and Advances in Behavior Research and Therapy, 16:, 167-215, 1994
- 7) Grossarth-Maticek R, Eysenck HJ: Personality, stress and disease. Description and validation of a new inventory. *Psychological Reports*. 66, 355-373, 1990
- 8) 織井優貴子：大腸がん患者の免疫能と QOL に対する「writing」を用いた看護介入の効果. *日本がん看護学会誌* 20 (1), 19-25 ,2006
- 11) Smyth JM, Stone AA, Hurewitz A, Kaell A: Effects of writing about stressful experiences on symptom reduction in patients with asthma or rheumatoid arthritis: a randomized trial. *JAMA*. 281 (14): 1304-9, 1999
- 12) Sephton SE, Sapolsky RM, Kraemer HC, et al: Diurnal cortisol rhythm as a predictor of breast cancer survival. *J Natl. Cancer Inst* 92: 994-1000, 2000

VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

日本がん看護学会、European Society for Medical Oncology (予定)